# 第２講 【倫理編】幸福とは（あり方と生き方）
# PART1 源流思想

## Chapter1　古代ギリシアの思想

目標
ソフィストの考えと三大哲学者の考えとの大きな違いを理解しよう。
三大哲学者とヘレニズム思想家との立場の大きな違いを理解しよう。

### 1　ソクラテス登場以前のギリシア

①古代ギリシア世界と神話（前８世紀～）→**都市国家〔ポリス〕**

②**ギリシア自然哲学**（前６世紀～）→神話〔ミュトス〕から理性〔ロゴス〕へ

| おもな**自然哲学者** | **万物の根源〔アルケー〕** |
|---|---|
| A　**タレス** | 〔　　〕 |
| B〔　　　　　　　　　〕 | **数** |
| C　ヘラクレイトス | 火 |

③〔　　　　　　　　　〕**〔職業教師〕**（前５世紀）→弁論術〔レトリケー〕を重視

A　**プロタゴラス**　絶対的真理を否定「**人間は万物の尺度である**」

B　ゴルギアス　絶対的真理を否定

### 2　ギリシア三大哲学者（前５～前４世紀）

①〔　　　　　　　　　〕→絶対的真理を探究

すべての事物には卓越性＝**徳〔アレテー〕**があるとし，人間の徳は**魂〔プシュケー〕**を絶えず世話すること（**魂への配慮**）により「〔　　　　　　　　　〕」ことであると考えた。

※人間は善美の事柄について知れば必ず善い行いをし（「**知行合一**」），魂の徳を知れば徳を備え（「〔　　　　　　　〕」），善く生きて徳を備えれば幸福になる（「**福徳一致**」）と説いた。

A〔　　　　　　　〕「私は知らないということを知っている」

B　人は**知への愛〔フィロソフィア〕**＝**哲学**を持つべき

C〔　　　　　〕**〔助産術・産婆術〕**

D「悪法もまた法なり」と述べ**アテネ**で処刑された

②〔　　　　　　　〕→**理想主義**的な哲学を展開

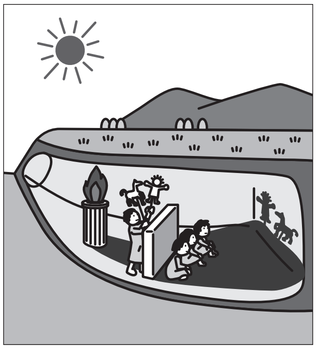
ソクラテスの弟子。感覚を手掛かりに〔　　　　〕だけで捉えることができる永遠不滅の本質・真の実在である〔　　　　　〕の存在を提唱。

A　イデアを求める愛→〔　　　　　　　　〕

B　魂の３部分→理性・気概・欲望

C　**四元徳**→知恵の徳・勇気の徳・節制の徳の３つが調和すれば**正義**の徳が実現する

D　国家論→**理想国家**は〔　　　　〕政治



洞窟の比喩

③〔　　　　　　　　　　　　　　〕→**現実主義**的な哲学を展開

プラトンの弟子。真の実在は感覚で捉えられる個々の事物にある（＝イデアは事物の素材である**質料〔ヒュレー〕**に**形相〔エイドス〕**として内在している）と提唱。

A　**観想〔テオリア〕**的生活を送ることこそが最高善

B　徳を〔　　　　　　〕**徳**と**倫理的徳〔習性的徳〕**に分類

C　**中庸〔メソテース〕**の重視

D　〔　　　　〕に基づく平等の実現

あ　**全体的正義**と〔　　　　　　〕**正義**

い　部分的正義はさらに〔　　　　　　〕**正義**と**調整的〔矯正的〕正義**に分かれる

E　**友愛〔フィリア〕**→相互的なもの

## 3　ヘレニズム思想（前４～前３世紀）

アレクサンドロス大王の東方遠征を契機に，ギリシアとオリエント〔東方〕を思想的に統合（＝**ヘレニズム**）。**世界市民〔コスモポリテース〕**としての生き方が関心を集める。

①〔　　　　　　　　　　〕**派**→**エピクロス**が祖

A　〔　　　　〕**主義**→アタラクシア〔魂の平安〕

B　「隠れて生きよ」

②〔　　　　　　〕**派**→**ゼノン**が祖

A　〔　　　　〕**主義**→アパテイア〔不動心〕

B　「自然に従って生きよ」

まとめ
ソフィストは相対的真理，三大哲学者は絶対的真理を唱えた。
三大哲学者はポリス市民，ヘレニズム思想家は世界市民である。

# Chapter2　中国の思想

目標
墨家は儒家のどういう部分を批判して，何を主張したのか，理解しよう。
道家は儒家のどういう部分を批判して，何を主張したのか，理解しよう。

## 1　諸子百家（前８～前３世紀）→古代ギリシアの哲学者たちと同時期

**春秋・戦国時代**，富国強兵を目指す各国に対しさまざまな思想・政策を説く〔　　　　　　　　〕が登場した。→**儒家・墨家・道家・法家**・名家・兵家・縦横家・陰陽家・農家など。

## 2　儒家

①〔　　　　〕（前６世紀後半～前５世紀前半）→言行録『〔　　　　〕』
　A〔　　　　〕＋〔　　　　〕＝**仁**という愛
　　親孝行で兄や年長者に従順＋自分を偽らず他人を思いやる→感情を重視
　B〔　　　　　　　　〕「己に克ちて**礼**に復るを**仁**と為す」
　　克己復礼の態度が国を治める道につながる（＝**修己治人**）。
　C　**君子**による〔　　　　〕**主義**→人が従うべき正しい道理としての「**道**」を説く
　D「未だ生を知らず，いずくんぞ死を知らん」「怪力乱神を語らず」→合理主義的態度
②〔　　　　〕（前４世紀前半～前３世紀前半）→言行録『孟子』
　A〔　　　　〕説→孔子と同様に教育を重視
　B〔　　　　〕と**四端**（生まれながらにもつ善）
　　**仁**のめばえ→**惻隠**の心　　〔　　〕のめばえ→**羞悪**の心
　　**礼**のめばえ→**辞譲**の心　　〔　　〕のめばえ→**是非**の心
　C　浩然の気〔不動心〕→これをもつ人物が**大丈夫**
　D〔　　　　〕→父子の**親**，君臣の**義**，夫婦の〔　　〕，長幼の〔　　〕，朋友の〔　　〕
　E〔　　　　〕政治→政治に関しては孔子と同じく徳治主義の立場をとった
　　徳に反する**覇道政治**を行ってしまうと天命が移る「**易姓革命**」が起こる。
③〔　　　　〕（前３世紀ごろ）
　A〔　　　　〕説
　B〔　　　　〕主義→弟子の韓非子らはこれを強化・発展させ法家として**法治主義**を生む
④**儒学**の成立（前２世紀後半）→〔　　　　〕という宗教へ

⑤〔　　　　　　　〕の成立（12 世紀後半）→**南宋**の〔　　　　　〕〔**朱子**〕

A　**四書**（『論語』『孟子』『大学』『中庸』）を

**五経**（『詩経』『書経』『礼記』『春秋』『易経』）に加え重視。

B〔　　　　　〕**二元論**

あ　人間を含む万物は「**気**」という物質で構成される

い　その存在根拠や道徳的規範は「**理**」という宇宙の原理として天から賦与される

う　人の本性は「理」（＝**性即理**）であるが肉体すなわち「気」に乱されている

C　**居敬窮理**

「理」を窮め欲を捨てて「理」に従い知を深める→**格物致知**へ

⑥〔　　　　　　　〕の成立（16 世紀後半）→**明**の〔　　　　　　　〕〔王守仁〕

A　**致良知**

人の心は生まれながらに「理」という善を備えている（＝**心即理**）

※誰もがもつ善悪を判断する心である〔　　　　　〕を発揮していけば，善が実現する。

B　**知行合一**→真の知は実践を伴わなければならないと朱子学を机上の学問として批判

## 3　墨家と道家

①**墨家**→〔　　　　　〕（前５世紀後半～前４世紀初め）

〔　　　　　〕・交利・**非攻**・節用を説き儒家の「仁」を別愛として批判

②〔　　　　　〕→老子・荘子の〔　　　　　〕思想（のち**道教**へと発展）

A　**老子**（前５世紀？）→論理的（共同体政治「**小国寡民**」が理想）

あ〔　　　　　　　　　〕

「**道〔無〕**」に従う**自然**に任せた生き方を理想とし感情を重視する儒家を批判

※「大道廃れて仁義あり」「学を断てば憂いなし」

い　**柔弱謙下**→「上善は水の如し」

B　**荘子**（前４世紀後半）→比喩的・神秘的（「胡蝶の夢」「無用の用」の話）

あ　**万物斉同**

い　**心斎坐忘**→逍遥遊する〔　　　　　〕〔至人〕を理想化

まとめ

兼愛を説く墨家は，身分の上下や血縁にこだわる儒家の姿勢を批判した。
無為自然を説く道家は，道徳や教育にこだわる儒家の姿勢を批判した。

# 第２講　PART1　確認問題

**1**　万物の根源〔アルケー〕を水であるとした人物はだれか。

①　ヘラクレイトス　　②　プロタゴラス
③　ピタゴラス　　④　タレス

**2**　絶対的真理を否定し，「人間は万物の尺度である」と述べた人物はだれか。

①　ゴルギアス　　②　ピタゴラス
③　プロタゴラス　　④　ヘラクレイトス

**3**　人間の徳は魂〔プシュケー〕を絶えず世話すること（魂への配慮）により「善く生きる」ことであると考えたギリシャの哲学者はだれか。

①　プラトン　　②　プロタゴラス
③　ソクラテス　　④　アリストテレス

**4**　アリストテレスのいう，事物に内在する形相を何というか。

①　エイドス　　②　フィリア
③　ヒュレー　　④　メソテース

**5**　禁欲主義を唱えたストア派の人物はだれか。

①　エピクロス　　②　プラトン
③　アリストテレス　　④　ゼノン

**6** 仁を思想の中核とし，君子による徳治主義を主張した人物はだれか。

① 孟子　② 老子
③ 孔子　④ 荀子

**7** 孟子が説いた考え方は何か。

① 性悪説　② 性善説
③ 徳治主義　④ 礼治主義

**8** 理気二元論や居敬窮理などを説いた人物はだれか。

① 王陽明　② 朱熹
③ 荘子　④ 墨子

**9** 王陽明が説いた，人の心は生まれながらに「理」という善を備えているという思想は何か。

① 心即理　② 性即理
③ 知行合一　④ 格物致知

**10** 老子が説いたのは何か。

① 無為自然　② 易姓革命
③ 心斎坐忘　④ 万物斉同

# 第 2 講　PART1　確認問題　解答

**1** 解答：④　タレスは，世界の根源を「水」によって説明しようとした。

①：万物の根源〔アルケー〕を火であるとした人物。
②：「人間は万物の尺度である」と述べた人物。
③：万物の根源〔アルケー〕を数であるとした人物。

**2** 解答：③　プロタゴラスは，アテネで活動した代表的なソフィスト〔職業教師〕である。

①：プロタゴラスと同様に代表的なソフィスト〔職業教師〕。
②：万物の根源〔アルケー〕を数であるとした人物。
④：万物の根源〔アルケー〕を火であるとした人物。

**3** 解答：③　魂〔プシュケー〕を絶えず世話することを「魂への配慮」という。

①：ソクラテスの弟子である。
②：「人間は万物の尺度である」と述べた人物。
④：プラトンの弟子である。

**4** 解答：①　アリストテレスは，イデアは事物の素材である質料〔ヒュレー〕に形相〔エイドス〕として内在していると提唱した。

②：友愛のこと。友として互いに善きものを与え合うという，国家形成の結合原理である。
③：質料のこと。
④：中庸のこと。過剰と不足との両極端を避けることである。

**5** 解答：④　ゼノンは，情念を抑えたアパテイア〔不動心〕を重視した。

①：快楽主義を説いたエピクロス派の人物。
②：永遠不滅の本質・真の実在であるイデアの存在を提唱した人物。
③：真の実在は感覚で捉えられる個々の事物にあると提唱した人物。

**6** 解答：③　孔子は儒家の祖。孝悌と忠恕を仁の基本とした。

①：孔子と同様に教育を重視し，性善説を説いた人物。
②：道家の始祖で，無為自然を説いた人物。
④：人間の本性は悪であるとする性悪説を説いた人物。

**7** 解答：②　孟子は，人間は善を直観する良知と善を実践する良能を生まれつきもっているとした。

①：荀子が説いた。
③：孔子が説いたもので，仁に基づく理想的な統治形態。
④：荀子が説いたもので，社会生活の規律である礼（社会規範）に基づく統治形態。

**8** 解答：②　朱熹は朱子学の祖。居敬窮理とは「理」を窮め欲を捨てて「理」に従い知を深めることである。

①：陽明学の祖で，致良知や知行合一を説いた。
③：道家の一人で，万物斉同や心斎坐忘を説いた。
④：墨家の祖で，兼愛・交利・非攻・節用を説き，儒家の「仁」を別愛として批判。

**9** **解答：①**

王陽明は，誰もがもつ善悪を判断する心である良知を発揮していけば善が実現する，とした。

②：朱熹が説いた，人の本性は「理」であるという思想。
③：王陽明が説いた，真の知は実践を伴わなければならないとする思想。
④：朱熹が説いた，居敬窮理によって真実の知に至るとする思想。

**10** **解答：①**

無為自然とは，道家の老子が理想とする「道〔無〕」に従う自然に任せた生き方である。

②：儒家の孟子が説いた思想。
③：道家の荘子が説いた思想。
④：道家の荘子が説いた思想。